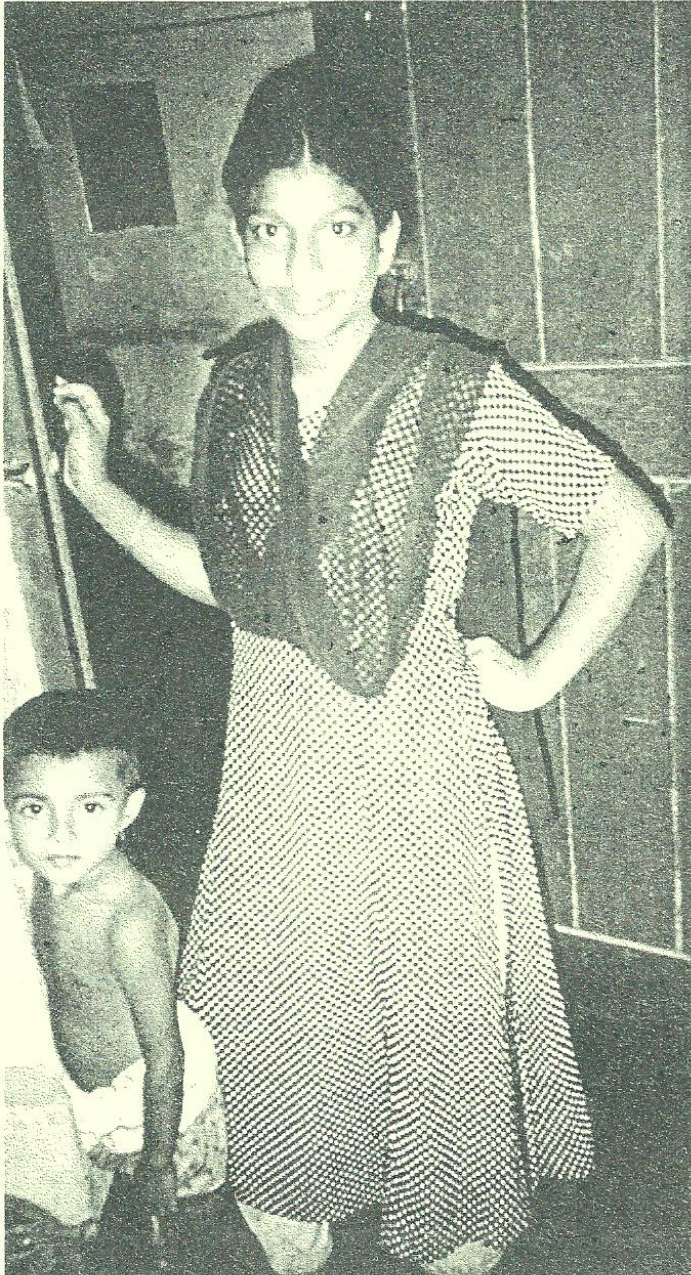


特定非営利活動法人

バングラデシュと手をつなぐ会



ミロン

No.109

March
2007

特定非営利活動法人
バングラデシュと手をつなぐ会

福岡市早良区西新5-4-20

TEL&FAX:092-844-1369

ホームページ:<http://bangla.nngo.jp>

「ミロン」は「一つになる、手をつなぐ」という意味のベンガル語です

■ アジアの子どもたちの未来のために ■

バングラデシュと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディで現地の村人による開発のための委員会「ションダニ・ションスタ」と協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

教育の分野では

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、教科書の貸出】

医療の分野では

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



国内活動では

夏の現地訪問、冬のスタディツアーを
毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

20周年に向けて～5月総会にお集まりください。

2007年を迎えて、早くも3月。来年の20周年を前に、バングラデシュと手をつなぐ会も会員の皆さんと力を合わせて、さらに発展したいと願っています。

06年度は、コンサートや料理教室など日常活動に加えて、理事研修を行いました。(4-5P) 理事を中心にメンバーが集まり、会の歴史を皆で振り返り、現地での課題とともに、私たちの会のあり方や「シオンダニ・シオンスタ」との関わり方についても議論を深めることができました。皆で考え方や気持ちを共有する機会となりました。このように、同じ場所で同じ時間を過ごすことが、気持ちの共有の上で大切だと強く思いました。

また、夏冬の現地訪問、スタディツアーも毎年の積み重ねの重要さを感じます。これらのツアーは、現地の人たちと同じ場所で同じ時間を過ごすことです。映像や文章だけでは伝えることのできない、人と人とのつながりを実感する場でもあります。

20年続けてきた私たちの会も、多くの課題を抱えています。会員や協力者の皆さんの力をお借りして、一緒にこれからも課題を解決しながら、進んでいきたいと思っています。

5月の総会に、どうぞ足をお運びください。

一緒に、カラムディ村の村人の、そして私たちの未来を考えていきましょう。

(二ノ坂 保喜)



ミロン 109号目次	
あいさつと目次	1
現地からの報告	2-3
理事研修会報告・研修会インターン感想	4-5
料理教室報告	6
FUNN 研修・講演報告	7
会計報告・会計状況	8
これからの行事予定・ボランティア募集・総会のお知らせ	9
春のバザー 開催のお知らせ	裏表紙

バングラ・カラムディ情報～

現在のバングラデシュの状況・カラムディ村からのお知らせ

(ラフマン・モクレスール)

■最近の政治情勢

昨年10月からバングラデシュの政治状況が大きく変わっている。主に選挙を実施し、新政権に国運営の任務を渡して去っていく目的で暫定政権が発足したが、与野党の非協力や暴力的行為でその目的は達成できなかった。国民の日常的な生活が脅かされ、45名の一般人が命を落とし、多くの人が重軽傷を負った。そして教育機関や経済もストップした。結局、最初に発足された暫定政権は失敗に終り、やむを得ず大統領は軍に協力を求めた。その背景には有識者の支持や各国の暗黙の了解もあった。大統領は今年1月11日に国民に向けて演説し、非常事態を宣言、バングラデシュ・バンクの前総裁を暫定政権の首相に任命した。1月22日に予定されていた総選挙も中止。軍の司令官も協力し、また全国に軍を配備した。軍と警察が協力し合って、今まで権力を悪用して財産を集めた政治家やビジネスマン、公務員を逮捕し、財産の報告を求めている。その中には、50名の大臣や国会議員も含まれている。

暫定政権は今、クリーンな選挙を目指して環境作りをしている。新たに有権者名簿を作成し、IDカードを発行、透明な投票箱を用意する。政党から早期に選挙を行うよう要請はあるが、暫定政権は上記の状況が整い次第選挙を行う方針。現在、非常事態宣言によって憲法が機能していないので、暫定政権は有利な立場にいる。また国民からも幅広い支持を受けている。今の状況はあくまでも非常事態なので、早く選挙が行われ、民主主義国家に復帰することを願っている。

■2006年平和ノーベル賞受賞者のモハッモド・ユヌス氏は政治の世界へ

グラミン銀行の創設者モハッモド・ユヌス氏はマイクロ・クレジットを導入し、多くの貧しい女性に職を与え、貧困撲滅活動を展開してきた。その業績が世界的に認められ、2006年平和ノーベル賞を受賞した。彼は授賞式に参加する前からバングラデシュの政治家たちに対して絶望を示し、自ら政界入りすることを考えていた。そして2月11日に国民に向けて公開書簡を送り、国民に意見を求めた。それに対して国内外の多くの人から激励または批判的な意見が寄せられた。

ユヌス氏の意味は固いようで、いろいろ批判を受けながらも「貧困を博物館に送る」スローガンの下、「ナゴリーク。ショクティ」（国民の力）という新政党の名前を発表した。またグラミン銀行から身を引くことにしている。大学教員→NGOプロ→政治家という路線。どこまで成功するか見守りたい。

◆ ションダニシヨンスターの今 ◆

◆ ションダニの医療関係の報告

ションダニの報告によると、患者数は季節と深く関係する。一般的に雨季は胃の病気が多い。また麻や米の収穫の時期でもあるので、比較的現金収入もある。結果として来院する患者数も多くなる。しかし乾季になると、風邪による病気が多くなるが、現金収入は少ない。だから患者数が比較的減少する。この現象は数年前から同じような傾向にある。外来患者数も出産者数も7・8月と比べて少ない。ちなみに11月と12月の出産者数は37名と34名である。ほとんどは地域出身者が検診を受けているが、はるかに遠い地域から事前連絡なしに来院した人も数名いた。

◆ 昨年妊婦死亡事故から学んで

以前報告したように、昨年10月にションダニの病院で妊婦さんとその胎児が死亡した。このことをションダニは重く見て、様々な対策をとっている。まず自分たちにどのような問題があったのか、横や縦のつながりはどうなっているか、知識や技術はどうなっているかなど。今はどんな小さな問題があってもそれを隠すのではなく、互いに共有する体制を作ろうとしている。まずスタッフは頻繁に会合を開き、話し合う。知識改善のためにエクラムルが中心になって、スタッフ研修のシステムを作っている。ションダニ事務局長のザフォル、病院幹部のレザウルやエクラムルは時々病院に寝泊りし、スタッフや患者さんとコミュニケーションを図る。気づいたことがあれば、みんなですべての解決策を考える。これには、医療部門では医療提供者の自発性が必要。そこが今のところ欠けている気がする。私たちも現地訪問やスタディツアーを通して医療指導者の問題点を感じるが、大きな声でそれを言えない現実もある。

◆ スタッフの給料に関するションダニのジレンマ

ションダニの収入は、手をつなぐ会から年間補助金300万円と病院からの収入約130万円である。診察料は病院オープン以来変わっていない。診察料をアップすると、貧しい人々が来なくなる。そうすると、この病院建設の目的が果たせなくなる。また手をつなぐ会も送金額を増やせない状況にある。しかしスタッフは毎年同じ給料で働くことも出来ない。家族のメンバーも増えるし、子ども達の教育費もかかるからである。給料アップの見込みがないことを見て、今年3月末で受付兼レントゲンや検査技師補助員として長年働いていた人が退職願いを出している。また検査技師も辞めると聞いている。スタッフが頻繁に変わることは組織にとっていいことではない。このような状況をいかに解決するかが、ションダニの悩みの種になっている。

理事会研修報告！

(矢野 孝明)

これまで手をつなぐ会では事務局会議、運営委員会と毎月 2 回の会議を通じて、国内、現地活動について話し合いを重ねてきた。しかし理事間でも経験や考え方が様々で、さらに現地状況の変化や成長が著しい中で理事間の認識について「ギャップ」があるというのが現状だった。そこで理事が一同に会し集中的に話し合いを持つ機会として昨年 12 月 2 日～3 日、合宿形式で第 1 回理事研修を以下 3 つの目的で実施した。

- ①これまでの手をつなぐ会の活動を振り返り整理する。
- ②現在までの国内、現地活動状況について正確に把握し、理事間でそれを共有する。
- ③今後の活動について 20 周年を見据えながら方針・戦略を打ちたて、具体的活動内容についての検討材料とする。

研修内容については主に現地での活動を中心にトピックスを設定し話し合いを進めていった。

手をつなぐ会の歴史と理念について (担当：二ノ坂、中島)

1987 年のバングラデシュに学校をつくる会の発足から手をつなぐ会の「生い立ち」をたどる作業を通して、会開設当初の理念を再確認した。「会の歴史や理念をしっかりと共有し、それを報告会等の場で常に周知していくべきであり、そのための体系化された資料を今後作成していく必要がある」ということを確認した。

医療分野での活動について (担当：二ノ坂)

医療分野での活動の経緯をたどり、そもそも母子保健センター (MCH) の目的・存在意義は何であるのか共有した。さらに、MCH の目的達成度について評価するためにも、今後は「シヨンダニは MCH をどうしていきたいのか」「手をつなぐ会は MCH をどうしていきたいのか」「手をつなぐ会はどのようなスタンスで MCH を支援していくのか」ということを明らかにしていく必要があることを確認した。

教育分野での活動について (担当：ラフマン)

バングラデシュの教育システムについて、また、「Education for All」の発生からその後の「Quality Education」への考え方の転換という潮流について確認し、その後シヨンダニの行っている教育分野での活動を整理し、共有した上で今後は「ジャパニ小中学校での教育支援」「手をつなぐ会としてのオンネシャスクールの扱い・位置づけ」「奨学金制度の今後」について今後議論の必要がある項目について確認した。

バングラデシュ他地域から学ぶ農村開発の事例 (担当：矢野)

タンガイル県で実施されている JICA の活動を事例に他の農村開発の取り組みを比較検討しながらシヨンダニの活動を外から見る機会になった。

仔牛の奨学金について (担当：宇治)

従来の奨学金制度と比較しながら仔牛の奨学金の特徴を挙げていき、仔牛の奨学金

というプロジェクトについて理解を深めた。「仔牛のプロジェクトの位置づけはどのようにすべきか」という点が会としての今後の話し合いの焦点となることを確認した。

手をつなぐ会とシオンダニとの関係について

上に述べたように各テーマについてのこれまでの経緯と現状、重要なポイントを整理していき、今後話し合うべき課題を明らかにした後に、「仔牛の奨学金」を糸口にして「仔牛の奨学金やオンネシャスクールなど、外部の資金者に対する手をつなぐ会のスタンスをどうするのか」さらに「シオンダニと手をつなぐ会の今後の関係はどうあるべきか」ということについて議論を深めていった。

その中で見えてきた共通意見としては、「資金提供者がどこであれ、シオンダニがやることにに対して手をつなぐ会はサポートする」「我々は、“シオンダニの何々のプロジェクトに支援している”ということではなく、“シオンダニに対して支援している”」というスタンスが大切であるという点であった。この共通認識の下に、今後は現地訪問や現地とのやりとりなどの中で各テーマでの課題について具体的解決について検討しながら、パートナーとしてのより良い関係作りを目指すという結論に至った。

今回は各テーマについて各自が納得いくまで議論を交わしながら、その方向性を模索し、今後の課題について具体的に抽出していくことに努めた。今後は各会議の場でそれぞれの課題について話し合いを重ねながら活動に反映させていく予定だ。また定期的に理事研修も継続させながら、随時皆さんに報告していきたいと思います。

理事研修に参加して・・・

上野山 美沙

10月から私はインターンとして定期的にバングラデシュと手をつなぐ会の運営会議や事務局会議などに参加させていただいているのですが、理事研修に参加するまでは会議で日々話し合われている内容があまり理解できず、会議をただ聞いているというだけでした。インターンとして議論に参加していいのかという気持ちもあったのですが、それ以前に会の歴史や立場、プロジェクトの内容や現地で起こっている問題など、私にとっては知らないことだらけで、何も知らないのに発言なんてとてもできません、といった状況でした。しかし、それは私のような新入りのインターン生だけの思いではなく、理事をされている方々の中でも会のことをもっと知りたいという意見があったり、会全体としても20周年に向けて現地に対する会の立場を今一度見直そうというような目的もあり、今回このような理事研修が行われたのです。

理事研修の2日間は本当に濃密でした。研修は夕方から夜中まで、また次の日の朝から終了時間ギリギリまで行われ、その中で私は会に関する情報を本当にたくさん得ることができました。得たものが多すぎて、終わった後は脳がパンク状態になってしまった程です。正直、ホント疲れました。しかし後日また会議に出席した際、会や現地でのどのような問題が発生しているそれに対し何がどう議論されているのか、というようなことが私にもすんなりと分かるようになっていたのです。私が「会議に出る」だけではなく、「会議に参加する」ことができるようになったのは理事研修のおかげだと思います。インターンとして、これ以上ないぐらいの勉強を理事研修でさせていただきました。

バングラカレー教室

2007年1月28日(日)10:00から、あいれふ8階調理室において、バングラデシュ料理教室が開催されました。好天にも恵まれ、総勢43名でバングラカレーに挑戦しました。中には、バングラデシュからの留学生や青年海外協力隊OB・OGの方々のご参加もありました。

シャヒダさんのご指導のもと、ムルギル・マングショ(チキンカレー)とピアズ(豆と玉葱のかき揚げ)を作りました。同じ料理を作るのに、地方や家庭によって作り方が微妙に違うこと(例えば、ピアズを作るのに、スパイスを入れたり入れなかったりする。)を学ぶことができたのはとても新鮮な感じでした。



熱心にシャヒダさんの指導を受ける参加者の皆さん

和気あいあいとした雰囲気の中、料理が出来上がり、いよいよ試食。参加者の皆さんは美味しい料理に舌鼓を打ちながら、バングラデシュの食文化の実体験に浸っていました。スタッフが参加者の皆さんに感想を聞いてまわる中で、料理に関する質問が出る一幕もありました。



出来上がった料理
(チキンカレーとピアズ)

料理教室のあと、昨年末に行われたバングラデシュスタディーツアーの報告会が行われ、5名の方(実際の参加者は6名)の体験談に、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。また、11月に来日されたばかりのカエール夫人によるバングラで一番流行っている歌も飛び出すなど、大いに盛り上がりました。

(堀 哲也)

国際協力・NGO 活動担い手育成事業

「国際協力・NGO で働きたい人のための研修プログラム」

バングラデシュと手をつなぐ会が所属する地域ネットワーク型 NGO「特定非営利活動法人 NGO 福岡ネットワーク (FUNN)」では、昨年 9 月から約半年間「国際協力・NGO で働きたい人のための研修プログラム」を行ってきました。座学の外、海外研修やインターン研修のように現場に学ぶ活動も多く取り入れられているこのプログラムでは、スタッフ研修コースとボランティア研修コースで、志ある計 20 名の方々が熱心に学ばれています。

当会でも、スタッフ研修コースの上野山さんをインターン研修として受け入れたのですが、定例会議や理事研修合宿への出席の外、バザーの手伝いや料理教室の司会など国内活動に積極的に参加してくれています。また、ボランティア研修コースの立川さんと千蔵さんは当会のスタディツアーに参加し、その他の会の活動にも参加。同コース受講生であり当会賛助会員の堀さんももちろん引き続き会の活動に協力してくれています。皆さん心強いかぎりです。

このプログラムも 3 月 3 日で修了式を迎えます。今回 FUNN にとって初の試みとなった同プログラムですが、今後この受講生たちが、国際協力・NGO 活動の担い手としてどのように活躍してくれるのか楽しみです。
(淵上 裕子)

>>>> 講演会活動 <<<<<

2 月 1 日：朝倉高校の 3 百数十名の生徒を対象にバングラデシュの紹介や国際協力について英語で話をした。バングラデシュについてほとんど何も知らない生徒達に映像を見ながら話をした。講演内に使う単語を事前に生徒に配っていたので、いくらかは理解していたが、分かりにくいところは日本語で説明した。サリーとルンギを着た 2 人の教員が会場に入ると、生徒たちは大喜び。良かったと思う。

2 月 2 日：福岡市立那珂小学校で総合学習の時間に国際協力について話をした。子ども達は事前に様々な国や団体（特にユニセフ）について調べていた。私は国際協力の目的や仕方について述べた。子牛プロジェクトや麻袋について子ども達はとても関心を示していた。

2 月 16 日：福岡市立席田小学校で世界の子供達の教育事情、バングラデシュの子

～ラフマン・モクレスール～

供達の学校教育について話した。学力アップについて地域と学校が一体となって取り組んでいる学校だと校長から告げられた。とても寒い中、子ども達はまじめに私の話に耳を傾けてくれた。

2 月 22 日：北九州市立千代小学校 6 年生を対象にバングラデシュの子供達の日常生活や遊びについて話した。昨年行った学校だったので、とても親しみを感じた。給食にも参加させてもらった。豚肉の入ったメニューの代わりに他のものを用意していただき、申し訳ない気持ち。これも国際理解につながればと思った。

2 月 23 日：福岡市立東箱崎小学校の 6 年生に国際協力について授業をした。その後、給食にも参加させてもらった。実は私の娘の出身校であり、地域でのいろいろな活動を先生や生徒たちと一緒にしたことがあり特別な思いがある学校だ。

これからの行事予定

皆様のご参加をお待ちしています。

月 日	時 間	内 容	場 所
3月2日(金)	19:00~	事務局会議	西新事務所
15日(木)	19:00~	運営委員会	西新事務所
24日(土)	14:00~	バザー値段付け	このさかクリニック
25日(日)	12:30~	オカリナミニコンサート&バザー	このさかクリニック前 駐車場
4月5日(木)	19:00~	事務局会議	西新事務所
19日(木)	19:00~	運営委員会	西新事務所
22日(日)		総会資料印刷	このさかクリニック
23日(月)	11:00~	総会資料発送	西新事務所
5月10日(木)	19:00~	事務局会議	西新事務所
13日(日)	14:00~	定期総会	NGO ボランティアセンター 〈あすみん〉 セミナールーム
19日(土)		長崎チャリティ コンサート	長崎

*** ボランティア募集 ***

- ☆ 4月22日(日) 総会資料印刷・製本ボランティアを募集しています。
 - ☆ 4月23日(月) 総会資料発送ボランティアを募集しています。
- ご協力いただける方は、事務局(TEL092-844-1369)までご連絡下さい。
変更になる場合もあります。事前にご確認のうえご参加ください。

総会のお知らせ!

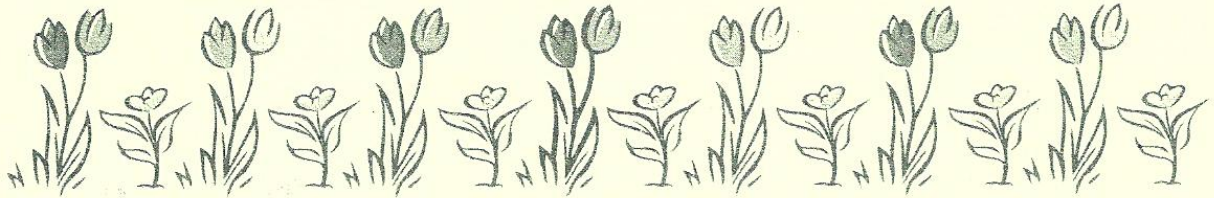
~皆様のご参加、お待ちしております。

5月13日(日) NGO ボランティアセンターあすみん内セミナールームにて
2007年度の総会を開催する予定です。

1年間の活動を振り返り、新たな1年をどう運営していくかを話し、確認し合う
大事な場です。多くの方と共にこの会のあゆみを見つめていきたいと思っております。
万障繰り合わせのうえ、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます m(_)_m

春の

チャリティーバザー 開催!



まいどおなじみのチャリティーバザーでございます。
日用雑貨に食器にお花、手作りお惣菜もそろえてお待ちしております。
万障繰り合わせの上、是非ご来場くださいませ。

※チャリティーバザーでの収益は、全て
バン格拉デシュの子供達のために使われます。

日時：3月25日(日)

12:30～ オカリナミニコンサート

13:00～ チャリティーバザー

スタート!

場所：にのさかクリニック前駐車場

(福岡市早良区野芥 4-45-55)

——★★★提供品もお待ちしております★★★——
バザーに出す品の提供もあわせてお待ちしております。
ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

主催：特定非営利活動法人 バン格拉デシュと手をつなぐ会

問い合わせ先：092-872-1136

(にのさかクリニック)